

旅行取扱状況の概観（令和 8 年 7 月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト、近畿日本ツーリストブループラネット、クラブツーリズム、ユナイテッドツアーズ、KNT 商事の合算額となります。

記

国内旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 109.8%、学生団体は同 102.0%、団体旅行合計では同 106.5%となった。企画旅行については前年比 99.0%となった。この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比 99.8%と前年度を下回った。

海外旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 105.7%、学生団体は同 113.9%、団体旅行合計では同 108.4%となった。企画旅行については前年比 109.0%となった。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比 109.7%と前年度を上回った。

訪日旅行は、前年比 92.5%と前年度を下回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の 7 月の総取扱額は、前年比 102.9%と前年度を上回った。

【区分別の状況】

1. 国内旅行

国内団体については、企業系コンベンションや周年旅行の取扱いが増加し、一般団体は 109.8%と前年度を上回った。

学生団体は、修学旅行の取扱いが伸び悩むも、スポーツ大会や研修旅行の取扱いが増加し、学生団体旅行合計で 102.0%と前年度を上回った。

国内企画旅行については、前年比 99.0%となった。国内自社企画（フリー型商品）では、沖縄方面や北陸方面が好調に推移するも、前年度の万博の影響により関西方面が伸び悩んだほか、北海道および都市部の宿泊旅行が伸び悩み、前年比 80.9%となった。クラブツーリズム国内（添乗員付商品）では、北海道方面や関西方面が伸び悩むも、自治体による団体旅行支援施策を活用した北陸方面や東海方面が好調に推移したことに加え、首都圏発のバス旅行も好調に推移し、前年比 102.6%となった。

以上の結果、国内旅行の総取扱額としては、前年比 99.8%となった。

2. 海外旅行

海外団体については、企業の視察・研修旅行や報奨旅行の取扱いが増加し、前年比 105.7%となった。学生団体は修学旅行の取扱いが伸び悩むも語学研修の取扱いが増加し、前年比 113.9%となった。この結果、海外団体旅行合計では前年比 108.4%となった。

海外企画旅行については、前年比 109.0%となった。クラブツーリズム海外（添乗員付商品）は、中東情勢の影響はあるものの、夏の人気方面であるカナダ、スイスに加え、アジア方面が好調に推移し、前年比 110.2%となった。

以上の結果、海外旅行の総取扱額としては、前年比 109.7%となった。

3. 訪日旅行

個人旅行では、東アジア・東南アジア市場からの需要が堅調に推移したことに加え、宿泊商品の販売施策の見直し等により販売が改善した一方、団体旅行が伸び悩み、訪日旅行全体では前年比 92.5%となった。